



医療法人共生会 川湯の森病院

住所：北海道川上郡弟子屈町川湯温泉4丁目  
8番30号  
TEL: 015-483-3121  
病床数：100床  
診療科：4科

の無垢材を主役とした木造建てとなつていて。木構造には視覚的なぬくもり以外にも柔らかな音の伝わり方ややさしい芳香など、聴覚・嗅覚的にも癒しにつながるのだ。

また温泉熱やヒートポンプを利用した床暖房設備で自給自足を実現。同院のある弟子屈町は、マイナス30度以下の日もあるが、床暖房で室温は約25度で保たれる。「患者さんも職員も、真冬でも半袖で過ごしています」（齋藤理事長）

温泉熱は病院敷地内のビニールハウス栽培にも使用されている。有機・無農薬で野菜、果物を育ており、病院食やオリジナルのワインの山葡萄やコーヒーの栽培も行っている。齋藤理事長は「病院

の無垢材を主役とした木造建てとなつていて。木構造には視覚的なぬくもり以外にも柔らかな音の伝わり方ややさしい芳香など、聴覚・嗅覚的にも癒しにつながるのだ。

また温泉熱やヒートポンプを利用した床暖房設備で自給自足を実現。同院のある弟子屈町は、マイナス30度以下の日もあるが、床暖房で室温は約25度で保たれる。「患者さんも職員も、真冬でも半袖で過ごしています」（齋藤理事長）

温泉熱は病院敷地内のビニール

ハウス栽培にも使用されている。有機・無農薬で野菜、果物を育てており、病院食やオリジナルのワインの山葡萄やコーヒーの栽培も行っている。齋藤理事長は「病院

食も自家栽培等によって葉物野菜

を中心に自給しています」と成果

を語る。

温泉以外にも近隣の摩周湖を水

源とする井戸水があるため、冷房

やトイレ等に使用している。

大型の太陽光パネルや温泉熱を

使ったバイナリー発電機も有し

ており、太陽光によって発電した

電力は売電ではなく自家消費し

ている。「燃料費で年間50,000

万円削減できました。大規模な停

電が伴う地震も経験しましたが、

当院は電気・水道どちらも問題な

く診療を継続できました」（齋藤

理事長）



写真 病院組織内に農園園芸課を設置し、病院給食の食材などを栽培している

## 地域経済圏の 発展に寄与する

地域への貢献と調和においては、単に病院を経営するだけではなく、地域経済の発展に寄与することをめざしている。その一つとして、院内に畑を持ち、食事業部農園園芸課として管理をすることで雇用を創出している（写真）。

新たな若い人口が流入したことによって、地元の保育園や小学校に職員の子どもが通うといった地域貢献も果たしている。

職員の増加に伴ってアパート建築を行うなどしたほか、29床の住宅型有料老人ホームも開所した。こうした関連事業の展開を念頭に置いた拡張性の確保は患者・職員の利便性向上のほか、今後さらなる、まちづくり、地域づくりを行っていくうえで有効だという。

斎藤理事長は「社会インフラである病院は、質が高い状態で存続することが求められます。災害が発生しても自給自足していれば診療を継続できるように、病院経営においても自給自足できることが理屈だと考えています。診療報酬などの公的財源だけでは難しいです」とも行うことで、実現できると考えています。そのため、まず医療から近い分野、地域性を鑑みて食事業に着手しています。最終的には運用益だけで財源確保できる経営をめざしています」と話す。

## 事例②

### 病院が経済圏をつくる

## 地域とともに生きる 自給自足の病院づくり

「災害時や経営的混乱が起つても社会インフラである病院は高い質で存続することが求められます」と齋藤浩記理事長は話す。温泉熱を使った暖房設備や発電、病院給食の食材栽培など、病院に付随する業務全般を内製化し自給自足をめざして川湯の森病院は取り組んでいる。

### 医療法人共生会 川湯の森病院

## 社会的インフラとして 必要な病院の経営を承継

北海道釧路医療圏北部の慢性期

医療・精神科医療を支えている川

湯の森病院は2007年、旧経営

陣より齋藤浩記理事長が、事業承

継した。後に「社会資源である医

療・介護・福祉・保健を通して人

と社会の幸福を追求するSAITO

MEDICAL GROUP」の幕開けと

なる。承継を機に新病院として設

備も整えた。齋藤浩記理事長は「最

初に訪れた際、空港から100km

近い道中も人の気配がなく、とて

も日本とは思えない外国のような

景色が続き、また、病院付近もさ

びれた雰囲気は、まさに限界集落

そのものという第一印象でした。

医療機関も医療従事者も少なく、

当院は地域社会のためには非常に

重要な社会インフラ担つており、

自分が承継しない場合に起こりえ

る事業の縮小や廃止の影響は極め

て大きい状況でした。加えて年間

60℃以上の寒暖差や硫黄泉からの

## 温泉熱などを活用し 水道光熱費を削減



齋藤浩記理事長

泉や豊かな大自然があり、ここなら私が理想とする自給自足の仕組みの実現が容易にできそう」と無限の可能性が見えたため、承継しました」と話す。

12年に開院した新病院は、▽安

心と癒しの環境、▽自然エネルギーの有効活用、▽地域への貢献と調和、▽増築や関連施設建設を念頭に置いた拡張性の確保――を意識した造りとなっている。